

キャラクター名  
標 誠士郎(いちい せいしろう)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ハヌマーン	ワークス	鬼を狩る者A	カヴァー	-
オプション		年齢	22	性別	男
覚醒	無知	衝動	殺戮	初期侵食率	39%
出自	貧乏	経験	被害者	邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	1	0			4	行動値	5
感覚	2		0			2	(非装備時)	5
精神	1		0			1	戦闘移動	10
社会	2		0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 鬼狩	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
日本刀(大鎌)	白兵	4r+2	4	10		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
----	----	----	----	----	----

所持品	
ウェポンケース	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
鬼の隻腕	P	N		
小鳥 蘭	P 庇護	N 不安		
渡辺 紫苑	P 尽力	N 不信心		
デーモンドクター	P 執着	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ゴッドトレイト:エグザイル	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
オールレンジ	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 判定ダイス+LV個								
死神の精度	3	4	メジャー	武器	単体	対決	リミット	
効果: 攻撃力+[LV×5]								
鬼の一撃	4	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: ガードに対するダメージ+[LV×5]								
流刑者の大鎌	1	8	メジャー	-	LV+1体	対決	120↑	
効果: 対象を[LV+1]体に/ダメージ+2D								
死神の疾風	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	120↑殺戮	
効果: 行動値+10/ダメージ+3D/次攻撃まで持続								
異形の相	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 表情筋をコントロールし鮮明に喜怒哀楽を表現する								
軽功	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 壁面や水面を走ることができる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

いつも穏やかな笑みを浮かべている男。  
武器である大鎌で鬼の首を表情一つ変えることなく狩っていく姿から『死神』と呼ばれている。  
誰にでも気さくに接するのが全ての人間にどこか距離を置いている。  
年上、年下問わず常に穏やかな敬語で話している。  
-----  
以下RHOに関わる設定(他PLには共有しない予定)  
京都の街外れ、山奥にある小さな村の出身。村民は30人程度しかおらず、村の全員が家族のように暮らしていた。  
しかし10年前、「鬼」と呼ばれる者達が村を襲い、村は荒らされ、燃やされ、食料も根こそぎ奪われて、村民達は抵抗もできぬまま無惨に殺されていった。その事件で運良く生き残り、逃げ延びたのが、PC①とその幼馴染の女の子、蘭だった。  
それから、二人は街に出て、二人で支え合いながら暮らしていった。子供二人で金もなく、家もない。生きる為なら盗みだつてなんだった。そんな暮らしでも生きるのをやめなかったのは、互いの存在があったから。  
なんとか働き口と住む場所を探して、やっと普通の生活ができるようになってきた頃、蘭が急に病に倒れてしまう。医者から受けた宣告は「余命一年」。そんな絶望の最中声をかけられたのがデーモンドクターだった。  
未だに「鬼」への恨みは消えない。それでも、そんな憎い鬼の腕をこの身に宿したとしても助きたい命があった。  
彼はデーモンドクターの手を取った。  
誠士郎には鬼の左腕、蘭には鬼の右腕が移植された。  
「鬼を狩るもの」に所属した彼は、感情を殺して非情な「死神」となり、ただひたすらに鬼の首を狩り続けた。いつか蘭と二人で「幸せ」を手に入れることを夢見て。  
・備考  
雑念を捨て「狩り」に専念する為感情を殺し、《異形の相》でいつも貼り付けたような笑みを浮かべている。常に敬語なのもその影響だが、たまに詭りが出てしま